

KALS 大学院入試対策講座

専属チューターからのメッセージ

チュートリアル通信

【2016年度】税法科目免除 VOL.14



河合塾 KALS の大学院入試対策講座では、チューター制度を導入しています。チューターは当校の合格者 OB/OG を中心に編成。授業での合格指導のみならず、受講生向け学習ガイダンス「サクセスチュートリアル」や個別カウンセリングなどを通じて、受講生からの進路・志望先に関する事、自主学習に関する事など、合格に向けてきめ細かくアドバイスをしています。以下は、税法科目免除・大木チューターからのメッセージです。今後の受験対策のご参考にして下さい！

秋受験の方向けに書いてきたチュートリアル通信も今回が最後になります。すでに合格された方、これから受験の方もいらっしゃると思います。今回は、合格後、入学までの準備や入学後に読んでおいたほうが良い本などを中心にお話ししたいと思います。

入学までの準備

● 法律の勉強

法学部出身の方は少ないのではないかと思います。入学の要件とされていないことも多いので、法律の基本的な勉強を入学前にする必要はありませんが、2年後、作成する修士論文のことを考えると、この期間に、できれば少し、法律の基本的な勉強をしておきたいところです。特に、修論の時期に「やっておけばよかった」と思いがちなのが、税法以外の法律分野の勉強です。Amazon の書評などを見ながら、選んでいただければ良いと思いますが、私が読んだ本をいくつかご紹介します。いずれも有名な本ですので、手に入りやすいと思います。

① **憲法** 芦部信喜『憲法』（岩波書店、第6版、2015）

すでにお亡くなりになられたものの、芦部憲法はいまだに憲法学の超定番テキストです。

② **民法** 道垣内弘人『ゼミナール民法入門』（日経新聞社、第4版、2008）

民法で積み重なった膨大な研究の成果が租税法の判断の基礎にもなります。

③ **民事訴訟法** 伊藤真『伊藤真の民事訴訟法入門』（日本評論社、第4版、2010）

裁判の流れを知ることは判例研究の第一歩です。

④ **行政法** 南博方『行政法』（有斐閣、第6版補訂版、2012）

租税法という学問領域ができる前は、行政法の一部でした。



● 報告

入学までにも、多くの方々にお世話になったことでしょう。そして、入学後も、仕事を切り上げて

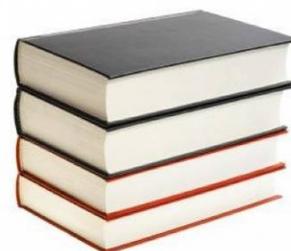
授業に出たり、子育て、犬の散歩、家事の手伝いができなかったり、親に学費の補助を得たり等々、周りの方にご協力いただかなくてはならないことだらけです。

私の友人で、奥様の理解が得られず、入学後、すぐに休学された方もいました。親しき中にも礼儀ありです。この機会に、会社の上司、同僚、ご家族など、お世話になった方に、ご報告とともに感謝の気持ちをお伝えください。

修論作成までの準備

● 修論を書く前に読む本

皆さんが、大学院に入る目的は、研究者として、学術論文である修論を作成することです。大学院に入ると、レポートの作成などを通じて多くの論文などに触れることとなりますが、法学の修論を書くための指導が体系的に行われているかというところではないように思います。そこで、修論を書く前に読んでおくと思われる本をご紹介します。



① 優秀論文 金子宏編『租税法の基本問題』（有斐閣、初版第2刷、2008）

まずは、優れた論文に触れてください。税法学者の珠玉の論文集です。

② 論文の作法 斉藤隆・西岡達裕『学術論文の技法』（日本エディタースクール出版部、新訂版、2005）

論文の書き方のテキストです。ちなみにテレビで有名な「齋藤孝」明大教授ではありません。

③ 法解釈 林修三『法令解釈の常識』（日本評論社、1975）

文理を離れた解釈は、どんな時に行われるのか？内閣法制局長官の法令解釈の基本テキストです。

④ 文献表示 「法律文献等の出典の表示方法」（平成26年）(PDF)

「耳タコ」状態かもしれませんね。文献表示の現在のスタンダードです。必ず、読んでください。



● 文献データベースの作成

研究計画書を作成するにあたって、かなりの文献に当たった方もいらっしゃるでしょう。修士論文では、少なくとも400字に一つ程度の引用が必要になります。6万字の論文であれば、引用数は150以上必要になります。したがって、これ以上の数の文献に当たることになりますので、引用したい文章がどこに書いていたかいずれわからなくなります。また、予約してまで取り寄せをした文献が既にコピーを取ったものと同じであったということも出てきます。

そこで、文献の整理やデータベース化が有効になります。まずは、段ボール箱や厚目のバインダーを用意して、研究計画書用に収集した参考文献は一か所にまとめてしまいましょう。そして、最低限、収集した文献のリストを作成するとともに通し番号を振って、見つけやすくしておきましょう。

今回は、さらに、文献の電子化について、少しご紹介します。

整理した資料は、できればスキャナーやデジカメでPDFにして、パソコンの中に、保存しましょう。OCR化（スキャナーで読み込んだ画像の文字部分の取り込み）も一緒にできていれば、検索も可能になり便利です。PDFにしておけば、紙の資料がどこに行ったか分からなくなっても大丈夫です。

文献データベース用ソフトには、無料・有料のものが多数あります（関心のある方は、「文献管理ソフト」などで、検索してみてください。）が、法学用にはあまり向いていないように思います。自分の例を参考に簡単に Excel で作る方法を紹介합니다。

D2		=G2&" " &E2&" " &H2&J2&L2&" (" &K2" ")												
No	種類	保存状況	引用表示	論文・書籍名	版	著者・編者	雑誌名	出版社	巻・号数等	発行年	該当ページ	備考		
BC007	1雑誌	コピー &PDF	今村隆「租税回避行為の否認と契約解釈(1)」税理42巻14号208頁(2000)	租税回避行為の否認と契約解釈(1)		今村隆	税理		42巻14号	2000	208頁	租税回避		
BI008	2書籍	コピー &PDF	今村隆「租税回避行為の否認と契約解釈(1)」税理42巻14号208頁(2000)	租税回避の事例研究 一具体的事例から否認の限界を考える』138頁(清文社,五訂版,2011)	五訂版	八ツ尾順一		清文社		2011	138頁	平和事件		
BI009	8判紙	コピー &PDF	谷口勢津夫「判紙」租税百選38頁(2011)	私法上の法形式の選択と課税-交換か売買か		谷口勢津夫	租税百選			2011	38頁	相互売買事件 岩瀬事件		

文献番号

引用表示

データフィールド

一番左の、「文献番号」はできるだけ、収集した順にナンバリングを行います。（例えば、BC007_imamura_2000, この場合," B" は研究開始から2年目," C" はその年の研究テーマの3番目," 007" はその研究テーマで、7番目に集めた資料," imamura" は著者名," 2000" は資料の発行年を表しています。）この番号をPDFのファイル名やコピーの上に書いておくと、散逸することなく整理が可能です。

データフィールドには、「論文名」「著者名」「掲載雑誌」「巻号」「発行年」などを入力します。そして、「引用表示」の欄には、以下の方法で、関数を使って自動的に文献引用表示の形式で表示させています。

図の例では、赤枠（セルD2）の「引用表示」欄に
=G2&" " &E2&" " &H2&J2&L2&" (" &K2" ")

と関数を使った数式を入れ

今村隆「租税回避行為の否認と契約解釈(1)」税理42巻14号208頁(2000)

と表示させています。

使っている関数は、&" "のみです。&でセルとセルをつないで表示します。また、カッコなど表示させたい文字は" "を使って表示させています。

スキャンする場合は、通常の複合プリンター以外に、ドキュメントスキャナー（持ち歩ける1~2万円台のモデルが、Canonや富士通から多数出ています。）でスキャンすると高速で両面スキャン+OCR化できます。また、手軽にスマホで済ますのなら、「CamScanner」や「Evernote」やMicrosoftの「OneNote」などのアプリに写真で保存してもPDF化+OCR化が可能です。

iPadなどのタブレットで読むときには、GoodReader (iOS)やezPDF Reader (Android)で読むと、マーカーや手書きで書き込みなどができて便利です。

皆様のアイデアで独自に工夫してみてください。

結びに変えて

いつもは、「終わりに」としていましたが、論文の最後の章によく使われる言葉です。「終わり」や「結び」というのは本来、結論を書くところになります。ところが、実際には、研究の結果、結論に到達しなかったり、一定の成果があったものの、新たな問題意識の始まりであったといったようなこともありがちです。そのような場合は、「結びに変えて」というのが本来の締めめの章のタイトルになるようです。

秋受験の方に対してのアドバイスも今回で終わりとなります。この通信を一部でもお読みいただいた方、また、カウンセリングにいらっしゃった方、長時間お付き合いいただきどうもありがとうございました。

本来、入試に役立つ情報ということがこの通信の目的だと思いますが、皆さんは、講師などの指導を受け、きっと、希望の大学院にご入学されることだと確信しています。そこで、この通信は、大学院入学ではなく、大学院に入学後、修士論文の作成にあたり、少しでもお役に立てるようにと心がけてアドバイスをしてきました。ここまで書いてきたチュートリアル通信を論文作成のための結論とするには、おこがましく、実際には、十分なものではないでしょうが、入学後、いくらかでもお役に立てればとおもいます。そして、皆様の研究の成果が、2年後に書く「終わりに」しっかりと結実することを祈念しています。

では、また、どこかでお目にかかりましょう。

